

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 広島県立賀茂高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒739-0043

広島県東広島市西条西本町 16-22

E-mail : kamo-h@hiroshima-c.ed.jp

Website : <http://www.kamo-h.hiroshima-c.ed.jp/>

児童生徒数：男子 349 名 女子 439 名 合計 788 名

児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (防災)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 事業の目標

本校は創立 109 年目になる賀茂台地の伝統校である。ほとんどの生徒は卒業後、大学への進学を希望しているため、第 1 学年から習熟度別クラス編成を行い、個々の能力に応じたきめ細やかな指導を行っている。また、姉妹校で韓国ユネスコスクールでもあるミチュホル外国語高等学校との、相互訪問交流などを通して、生徒の思考力・判断力・表現力を高め、豊かな心を育むとともに、グローバル社会に対応できる能力を育て、持続可能な社会を創造していく人材を育成することを本事業の目標とした。

生徒数	790 人 (男子 351, 女子 439)
教職員数	72 人 (非常勤講師 12 を含む)
平成 26 年 3 月卒業生の進路	国公立大 45, 私立大 146, 短大 14 専門学校 43, 就職 5, その他 14

2 事業計画

本事業の目標を達成するため、今年度は次のような計画を策定した。その中で特に、教科を横断して防災の視点を取り入れたESDの授業実践を行い、指導事例の充実に努めるとようにした。また、この取組について、東広島市教育委員会及び地元の広島大学と連携し、地域で一体となったESDの推進を行うようにした。

- ・ 5月 学識経験者を招聘し、校内においてESDの理論研修会を実施。
- ・ 6月 防災をテーマとし教科を横断した第一回のESD授業実践を行う。
- ・ 8月 海外のユネスコスクール(姉妹校)を訪問し交流(ホームステイ)する。
- ・ 10月 海外のユネスコスクール(姉妹校)の受入を行う(修学旅行)。
- ・ 10月 海外のユネスコスクールと、Web会議システムを活用した授業交流を行う。
- ・ 10月 第2回のESD授業実践を行う。
- ・ 11月 地域の小・中・高等学校、海外のユネスコスクール及び広島大学が参加し、学識経験者の基調講演及び各校のESDの実践報告を行う研究大会を開催する。
- ・ 11月 「ESDに関するユネスコ世界会議」に参加する。
- ・ 2月 研究成果を研究報告書及びHPで公表する。

3 各事業の概要

(1) ESDの理論研修会

- 目的: 社会の持続可能な発展に貢献する使命感と能力をもった生徒を育成するため、ESDの視点を重視した授業改善の推進に向けて、教職員の授業力の向上に資する。
- 日時: 平成26年6月25日(水) 12:45~16:45 事前・事後指導を含む。
- 講師: 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部総括研究官 西野 真由美先生
- 概要: ESDは、私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力をはぐくむ教育である。環境、国際理解、人権、福祉、民族、平和、資源、エネルギー、防災など、簡単に解決できない問題が、地球的規模で山積している。こうした問題を解決できなければ、地球の持続的発展はない。OECDのキーコンピテンシーである3つの視点を、「知識の獲得」「価値・態度といった意欲や心の育成」「問題を解決するための具体的な技能の習得」とし、この3つの視点から授業を構築していくことがESDの取組である。知識、価値・態度、技能をバランスよく身に付けた生徒は、問題解決能力が高まり、企業に入っても正解がない問いに取り組むことができ、ひいては、地球的規模での環境、国際理解、人権、福祉、平和、資源、防災といった課題に取り組むことができる。

(2) 防災をテーマとし教科を横断したESD授業実践

- 研究の方法
 - ・ ESDの視点を活かし、「防災」を共通テーマとする。
 - ・ ESDの視点に立って、各教科の授業実践及び、ディベートの指導を行う。
- 実践内容
 - ・ それぞれの教科のESD教材が他教科・他科目とどのように連携しうるかを考察し、他教科・他科目との共同授業が可能かどうかを検討する。
 - ・ 批判的思考力を高める指導を考察する。
- 各教科のESD教材における他科目との連携

	テーマ	目標・内容	他教科・他科目との連携
国語	国語総合 「方丈記」	<ul style="list-style-type: none"> 大地震を取り扱った「方丈記」という古典の文章を読むことを通して、地震の恐ろしさについて認識を深めさせる。 災害について語り継いでいくことの大切さについて話し合う。 	○地学基礎「活動する地球」 地震発生メカニズムや地震災害について理解を深め、対処法や直面した時の心構えについて学ぶ。
地歴公民	世界史A 「経済危機から第二次世界大戦へ」	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ戦争が起こるのか」「なぜ、世界大戦に発展するのか」を考察する。また、様々な課題を抱える現代社会を生きる主体として、批判的思考力を持ち、社会情勢を客観的に判断できる持続可能な社会の形成者としての資質を養う。 グラフ・資料・史料などから考察し、話し合いで自らの思考を吟味し普遍的な理論を導き出すプロセスから批判的思考力を養うことに主眼を置く。 	○国語総合「随想 少女たちのひろしま」 戦争中の事実について正しく理解し、平和について自分の意見を述べる。 ○コミュニケーション英語Ⅰ「Lesson 8 Not So Long Ago」 20世紀を象徴する写真を見て、歴史から何を学び、教訓をどう生かせるかを考える。 ○コミュニケーション英語Ⅱ「Lesson 10 Before Another 20 minutes Goes By」 地雷除去活動を通じて平和の大切さを考える。
数学	数学Ⅰ 「データの分析」	<ul style="list-style-type: none"> 自分の命を守る防災の観点から日ごろよく接する雨量と災害の関係について土砂災害を例にデータの考察を試みる。 	○地学基礎「移り変わる地球」 河川の働きや堆積岩の形成について理解する。
理科	化学基礎 「物質の構成に関する課題探究」	<ul style="list-style-type: none"> 実験を行う上で、自分の操作や環境から未来を予測し、危険を回避する。 ビデオや写真を提示し、危険だと思われる箇所を挙げていく。 	○保健「応急手当」 災害時に起こりうる事態を把握させ、一人一人が適切な応急手当の手順や方法を身につけることの必要性を理解させる。
芸術	美術Ⅱ 「防災ポスター」	<ul style="list-style-type: none"> 防災の意義を理解し、ポスター制作の進め方を学び、自分の考えを的確に表現し、他者に伝える能力を身に付ける。 	○コミュニケーション英語Ⅰ「Writers without Border」 情報や自分の考えを簡潔に表現する。
保健体育	保健 「現代社会と健康」「応急手当」	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に起こりうる事態を把握させ、一人一人が適切な応急手当の手順や方法を身につけることの必要性を理解させる。 	○化学基礎「物質の構成に関する課題探究」 身の回りにあるものや状況から危険をあらかじめ予測する能力を養う。
家庭科	家庭基礎 「被服の役割と機能 災害時の服装を考えよう」	<ul style="list-style-type: none"> 災害にあった時、暑さ寒さを防ぐことや身体を保護するなど被服の役割の重要性を理解する。災害時は助かった命をどのように守っていくかなど、被服の保健衛生的な機能を理解する。 	○保健「健康の保持増進と疾病の予防」「生涯の各段階における健康」 自分の健康を適切に管理し、改善していく資質を養う。
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ 「Writers without Border」	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に、日本語を十分理解できない外国人に防災・災害情報を伝えることを想定し、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき情報や考えなどを簡潔に書くことができる。 	○美術Ⅱ「防災ポスター」 ポスターを制作し、自分の考えを的確に表現し、他者に伝える能力を身に付ける。

※詳細は別紙の実践事例集参照

- (3) 海外のユネスコスクールの訪問
- 日時:平成26年8月4日(月)～6日(水)
 - 日程:〈1日目〉交流会, ホームステイ〈2日目〉バスケットボール交流試合, 仁川市内で韓国文化研修, ホームステイ〈3日目〉お別れ会, ソウル市内研修
 - 人数:生徒13名(バスケットボール部8名, 書道部3名, 演劇部2名)
- (4) 海外のユネスコスクールの来校
- 日時:平成26年10月23日(木)
 - 日程:歓迎式典, 昼食交流会, 授業参加, ホームルール交流, ミチュホル生徒による歌とダンスパフォーマンス, フォークダンス, 夕食交流会
 - 訪問したミチュホルの生徒数:46名(男子18名, 女子28名)
- (5) 海外のユネスコスクールとのWeb交流
- 日時:平成26年12月9日(火) 10:50～11:35
 - 該当授業:コミュニケーション英語 I
 - 参加生徒:本校1年6組の生徒40名と相手校英語自由科の1年生の生徒15名。
 - 交流内容:担当教員同士のあいさつの後, 生徒同士で, 互いの高校生活や文化について, 日本語もしくは英語で自由に質疑を行った。
- (6) 東広島ESD研究大会の開催
- 日時:平成26年11月14日(金) 13時30分～
 - 会場:東広島市中央生涯学習センター 大ホール
 - 後援:東広島市教育委員会, ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク), 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
 - パネルディスカッション
 - ・コーディネータ・岡山理科大学理学部教授 岡本 弥彦
 - ・東広島市立入野小学校「学ぶよろこびを感じる入野っ子の育成～ESDの視点に立った授業づくり～」
 - ・東広島市立西条中学校「「ふるさと『西条』～総合的な学習の時間から始めるESD～」
 - ・広島県立賀茂高等学校「防災の視点を取り入れたESDの実践」
 - ・広島大学大学院教育学研究科, 「ESD・ユネスコスクールの普及と推進のために」
 - ・韓国ミチュホル外国語高等学校「「部活動を中心に実践するESD」
 - 講演:『これからのESDの在り方について』国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官 西野 真由美
 - 説明:ユネスコスクール公式ウェブサイト活用方法について
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 教育協力部 松尾 奈緒子
 - 成果:県内の小・中・高・大及び行政関係者120名が参加し, 地域で一体となったESDの推進について, 共通認識を深めることができた。
 - 参加者のアンケート結果
 - ・問題解決型の授業を展開するため, 課題設定が重要だと改めて思いました。
 - ・評価について日ごろ困っていたが, 点の評価でなくプロセスでも子供の変化を見て評価するとよいことが分かった
 - ・学びの多様性ということに非常に考えさせられた。子供たちにこれから必要な力として自ら考える, 深めるための学習の工夫, 仕組んでいくことが大切だと思った
 - ・ESDの意味と, どうして必要なのかということがやっと分かった。又, ESDの授業作りはどういうものなのか理解できた。
 - ・ESDをどんな風に教科と関連付けていき正解のないことを人と話し合うことで自分の考えの幅を広げることに意味があるかが分かりました。
 - ・多様な意見がある中で, 上手に課題を解決したり, 解決に向けて話し合ったりする力を児童生徒につけていくことの大切さがよく分かりました。学校生活のすべてで指導・支援できるよう意識していきたいです。
 - ・ESDに向けた考え方が分かってきました。最初は何? どうするの? ということばかりでしたが自分の中でイメージが広がり, とっても有意義なものでありました
 - ・国の教育の方針がわかりESDの有効性を強く感じる事ができました。社会で通用する(将来無職とならない人間をつくらない)人材を育てたいと先生の話聞き感しました。(私の責務だとも思いました)
 - ・「持続可能な社会を実現するため一律の正解は存在しない」というキーワードが特に印象に残りました。

4 取組の成果

関連教科・科目の多面的な取組を組み合わせて実施した結果、次のような成果が見られた。

- ・「未来像を予測して計画を立てる力」、「他者と協力する態度」、「つながりを尊重する態度」の3つの能力・態度については高まった。
- ・防災の視点を取り入れたESDの実践によって、思考力・判断力が高まった。
- ・ディベートの指導については、「批判的思考態度」が高まったことが確認できた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ _____)